

つながって

会報（第15号）【地域つながりセンター発行】
2022年6月

地域つながりセンター

〒690-0017 松江市西津田3-5-16
TEL.0852-67-3088 FAX.0852-67-6890
[E-mail] shimanehatsutagaisama@akehosi.net
[URL] https://www.ctc-shimane.jp

基本方針／誰もが“自分らしく生きること”を大切にして、地域の中で医療・介護、そしてくらしをつなぎ「より多くの人々が安心して住み続けられる地域づくり」をめざします。（諸団体連携による地域づくり活動や事業の推進）

正会員／島根県農業協同組合、松江保健生活協同組合、生活協同組合しまね
6つのおたがいさま（まつえ・やすぎ／いずも／雲南／大田／浜田／益田）
ひかわ医療生活協同組合、出雲医療生活協同組合（現在11団体）

オブザーバー／島根県社会福祉協議会、松江市区社会福祉協議会

新代表 ご挨拶 石原 淳子（生協しまね 副理事長）



このたび、高橋玲子前代表の退任にともない、構成団体の一つである生協しまねから代表に就任しました石原淳子です。みなさまのお力添えをいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

地域つながりセンターは、『「人と人がつながり合って、誰もが孤立せず共に生きる社会」を地域のみなさんと共に創っていききたい…』という思いを持つ諸団体が協力して設立されました。

設立以来、地域連携の拠点として地域の諸団体や住民が力を合わせ、誰もが安心して住み続けることができる地域づくり活動（事業）を進め広げてきました。その「支え合いの各事業」の一つ、「なないろ食堂」に私も準備段階から関わらせていただいています。活動を通して実感するのは、人と人のつながりの中でぬくもりや安心感に包まれ、関わる誰もが元気になることです。新たなつながりができるのも嬉しいことです。

つながりや支え合いが希薄化する中で地域つながりセンターの活動は、地域共生社会の実現に向けて大きな力になるものと信じます。つながる力で更なる広がりを見なさんと共に創っていきたいと思います。ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

【退任のご挨拶】

高橋 玲子

地域つながりセンターが発足し、9年目を迎えます。

この関わりの中で様々な活動が広がり、たくさんの方々とのつながりが生まれました。その一つ「フードバンクしまね」は7月にはNPOとして活動が始まります。

センターの設立からこれまで、大変多くの皆様方の助けを借りながら、無事に代表のお役目を終えることができました。本当にありがとうございました。これからも、人と人との出会いにワクワクしながら、そこで生まれるつながりを楽しみに、引き続き「おたがいさま」のスタッフとして活動して参ります。

「おたがいさま」で生まれる人と人との出会いや一つ一つの応援は、確かに小さなつながりですが『誰もが安心して暮らせ 住んでいて楽しくなる地域づくり』のもと、これまでの20年間、たくさんの想いやエネルギーを積み重ねてきました。これからもその一員として、楽しみながら参加していきたいと思います。

地域つながりセンター 第9回 総会 開催



終息の見えないコロナ禍の中ですが、5月23日(月)午後、3年ぶりに正会員および各幹事の出席を得て、第9回総会を開催することができました。

正会員団体11団体のうち、当日参加は、7団体、他に個人会員2名。欠席の4団体は書面等での参加でした。

①21年度の事業報告・決算 ②22年度の事業計画・予算 ③役員改選…これら3議案に、全会員の賛成を得ることができ、新たな年度をスタートいたしました。

今年度、主に新しくなった点が下記の3つです。

1. **代表交替**…設立以来代表を務めた高橋玲子さんの退任を受け、正会員団体の生協しまねから、副理事長 石原淳子さんが新代表に就任しました。



2. **幹事に新しく2団体**…当センターを拠点とする「なないろ食堂」および「フードバンクしまね」の2団体から幹事を選出いただきました。(新役員名簿参照)
3. **「子どもの笑顔」応援基金**の設立…

この数年間、センター各事業を進める中で、生活にお困りの家庭にとっての支援は、食料のみならず、必要な情報の提供、そして多様な支援が必要だと実感してきました。

そこで、有償たすけあいのしくみと協力し、主にお子さんを育てる世帯に向けて「困っている時には誰かに頼ってください!」と呼びかけていきます。家事支援や子育て応援など、人とのつながりの機会やちょっと休憩(レスパイト)できる時間を持てるよう、そして少しでも元気になってほしい…そのお手伝いをします。

一方で利用世帯の負担(有償のしくみの利用には実費経費が必要)を考え、諸団体や地域の皆さんからの

募金や寄付等で、その負担を軽くできたらと考え「基金」のしくみを作りました。

この「基金」については、財政的にも継続的な事業として進めていくことが求められます。そこで、正会員団体会費の3%、また賛助会員会費の5%を基金の基盤として充てます。また、利用者や助け合いの団体にも1時間あたり少しずつ協力金をお願いすることで、誰もが参加し支え合うカタチにします。

誰もが、いつ、生活に困る状況に陥るかもしれません。この「**子どもの笑顔**」応援基金は、とりあえずの一時的な応援ではありますが、困った時には誰もが気軽に利用できるようにすすめていきたいと思います。

皆様には「基金」への募金、ご寄附等のご協力をなにとぞよろしくお願いいたします。

以上、ご報告と致します。

さて、当センターは、皆さんの集まりの拠点です。

今年度も新しい出会いやつながりが生まれ、新たな連携や協同の芽が育まれることを願っています。

皆さん、ぜひお立ち寄りください。(野津)

地域つながりセンター 役員名簿 (2022年~2023年)

	役職	備考
1	代表	生協しまね・副理事長
2	副代表	JAしまね
3	副代表	あったか地域づくり協議会・代表
4	常任幹事	松江保健生協・組織部長
5	常任幹事	生協しまね・常務理事
6	常任幹事	出雲医療生協・常務理事
7	常任幹事	地域つながりセンター・事務局長
8	幹事	JAしまね 本店・総務部ふれあい福祉課課長
9	幹事	JAしまね くにびき地区本部・企画総務部次長
10	幹事	生協しまね・理事
11	幹事	松江保健生協・地域担当課係長
12	幹事	ひかわ医療生協 常務理事
13	幹事	おたがいさま まつえ・やすぎ・代表
14	幹事	おたがいさま いずも・代表
15	幹事	おたがいさま 雲南・代表
16	幹事	なないろ食堂 運営委員会・代表
17	幹事	フードバンクしまね あったか元気便・事務局長
18	幹事	島根県社会福祉協議会・地域福祉部長
19	幹事	松江市社会福祉協議会・地域福祉課長
20	監事	松江保健生協・常務理事(兼総務部長)
21	監事	生協しまね・組織運営部つながり応援チームリーダー

総会研修 「ヤングケアラーに出会ったことがありますか？」

久しぶりに総会研修を行いました。「ヤングケアラーに出会ったことがありますか？」少し衝撃的な演題でした。講師は、一般社団法人 ヤングケアラーサロンネットワーク協会理事、そして 臨床心理士、スクールカウンセラー、公認心理士の「荒川ゆかり」さんです。

ヤングケアラーとは…

「本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。」
(その責任や負担の重さにより学業や友人関係に影響が出てしまうことがあります)



これまでの相談のご経験から、ご本人に許可を得られたものを中心に、様々な事例、そして複合的であることがわかる事例を紹介していただきました。

ある県での調査では、1日に1、2時間どころか7.8時間も家事

や誰かのお世話をしている子どもたちがいるという現実もあるそうです。また、島根県の子どもの調査からも全国的な傾向と変わらない状況がみられるとのことでした。

このようなお話には「昔も子どもは手伝っていた」「大変なら言ってくればいいのに」…少し聞いただけでは、そう言いたくなりそうです。昔は大家族の中での役割の一つとして確かに手伝うことは当たり前でもありました。しかし、今は、家族数の減少や人の関わりの少なさの中で、一人で「自分がしなければならない」「してあげなければ」との思いを当たり前のこととして日々を生活している子どもがいるという状況なのだそうです。「言ってくればいいのに…」とつい思いますが、子どもたちが SOS を「出せる仕組み」「明らかな窓口」などが無いのではとい

うお話でした。そういわれれば……。

大事なことは、子ども本人がどのように感じ、何を望んでいるのか、考えているのかを大切にしながら支援することです。「あなたの経験はきっとだれかを助けるかもしれないよ。だから教えてね!」とその子どもたちのことをまず知ることから始めるそうです。決して当事者不在にしないことが大切であると。

参加者の感想を下記に載せています。まずは、今の社会、身近なところで、「子どもが子どもらしく過ごさせているかな?」と、周囲を見ることが出来る大人になれたらいいですね。

『子どもが子どもらしくいられる街』をみんなでつづいていきませんか。

そのことはきっと「すべての人が幸せに暮らせる社会への一歩になるはずです!」と荒川さん。

私たちが進める諸団体連携事業も、様々な勉強が必要になっていることを痛感。引きつづき学習会を計画し、多くの皆さんに呼びかけていきます。

また、ご参加ください。

(野津)



正直、何がヤングケアラーで何の手助けができるのかはわかりません。ただ、現状があることを知ること、知っている人が増えることで意見や知恵を出し合って、なにか変化が起こるのではないかなと思いました。(Aさん)

やはり皆が集える場所、食堂であったり学習する場であったり、安心して自分が出せて受け入れてもらえる、学校や家庭の他に第三の場所が子どもや親にも必要と思います。

専門的な個々の相談場所がありますが、もう少し緩やかで持続した場所がほしいものですね。(Bさん)

「子どもの問題ではあるが、子どもだけの問題ではない」という言葉に、個別のことだけでなく、社会の問題なのだと思います。しわ寄せが子どもにいつている…誰もが当事者…と言うお話に、ため息が出てしまいました。(Cさん)

もっと身近で、もっと頼りに

フードバンクしまね 事務局長 大木 理之

あったか元気便は、「就学援助世帯」の子どもたちと家族に食品を提供し「元気」と「安心」を届けることを通じて「孤立」を防ぎ「自立」を応援することをめざしています。

21年度は、おかげさまで、のべ 1,405 世帯、のべ 4,940 人家族に約 16 トンの食品を届けることができました。

「(食品を)取りに行った時に、頑張っってね!一人じゃないからね!と温かい声をかけてもらい、涙が溢れてしまいました。また、仕事に、子育てに頑張ろうと自分自身に誓いました。」「毎日ひとりで戦っている気がしていました。」「頑張っっていこうと元気をもらいました。」「ひとり親のお母さんたちの声です。まわりの誰にも弱音もいえない「孤立」したおかあさんたちの姿が伝わってきます。同時に、やっと、あったか元気便もおかあさんから「愚痴をこぼしてもらえる存在になったかな?」と少し嬉しい気持ちにもなります。私たちの利用者の 8 割以上が「ひとり親」の世帯です。取り組みの中では、子育て、家事、仕事、家計をひとりで背負うことのたいへんさが伝わってきます。

そうした声が聞こえるなかで、夏からはじまる 3 つの応援の計画を紹介します。

一つ目は、「おかあさんのためのレスパイト(小休息)応援」です。「おかあさんだけの時間」、「子どもたちと、

ゆっくり過ごせる時間」を提供できないかとの想いです。家事、子育て応援はもちろん、おかあさんたちの「困りごと」を応援します。事務所の同居人の有償ボランティア「おたがいさま」と「地域つながりセンター」の力を借りて、はじまります。



レスパイト応援チームの話し合い

二つ目は、おかあさんの「悩みのタネ」、長期休校期間の「お昼ごはん」と「宿題」の解決にチャレンジします。お昼ごはんと学習支援をセットに地域の公民館と民生児童委員協議会の協力を得て、8月開催を計画しています。

三つ目は、「『ひろばに出よう』おしゃべりとくらしの情報交流ネット」の開設です。利用者とおあったか元気便をラインでつなぎ、くらし、子育て、食品提供などの情報とおしゃべりで交流することを計画しています。

あったか元気便による「つながりづくり」

島根大学人間科学部

佐藤 桃子

フードバンクしまね“あったか元気便”が行う支援の特徴は、食糧支援を通じたつながりづくりです。

一般的に「フードバンク」という言葉でイメージされるフードロスの解消や、困っている世帯に食糧を届けるというだけでなく、「大変な子育てを応援していますよ」というメッセージを届け、相談しやすい環境を整えていることが大きな特徴です。

フードバンクの構成団体は、理念としてつながりづくりの大切さを共有しており、それが寄付をくださる方やボランティアの皆さんにも伝わるのがさすがだなと思います。

2022年春休み支援では、対象世帯へ必要な支援や困っていることを尋ねる島根大学主催のアンケート調査を同封し、多くの皆さんからご回答をいただきました。あったか元気便にいつも助けられています、という声も多く、コロナ禍で特に窮状に立たされた子育て世帯に対して必要な支援を早急に考えていかなければと思います。



コロナ禍のなないろ食堂

なないろ食堂 事務局長 吉川 郁子

介護医療院虹から湖東中学校へと会場を変更しての開催2年目。新型コロナウイルス感染症の拡大状況をみながら、人数制限などの対策を講じて何とか開催を継続してきました。

開設当初から参加していた子どもたちが中学生になり、部活のないときなどには顔を見せてくれる、兄姉と一緒に小学1年生が参加するようになるなど、コロナ禍にあっても子どもたちの成長を見守り、それを喜びとして開催しています。

この間なかなかイベントなどできないこともあり、ボランティアさんがパソコンを持ち込んで、タイピングゲームなどで遊びながらパソコンに触れる機会を提供していただきました。興味のある子どもたちは喜んでパソコンの前に座っています。

また、学習支援を主とする“なないろ食堂寺子屋（軽食付き）”もスタート。大庭小学校などを会場に計4回（夏休み2回）開催しました。高校生・大学生の見守りのもと小学1年生から中学生までの子どもたちが集中して学習に取り組みました。

感染拡大で開催ができない時にはお弁当テイクアウトも3回実施しました。この企画では、お弁当を渡しながら皆さんの近況を聞くことができるなど交流の場にもなりました。

でも、以前のように多世代が集い、さまざまなイベントもある賑やかな“なないろ食堂”がやはり懐かしく、そんななないろ食堂を開催できる日が1日も早く来ることを願うばかりです。

（*写真については承諾頂いています）



パソコンゲーム



寺子屋



お弁当テイクアウト

しまね子ども食堂ネットワーク

島根県社協 子ども食堂推進コーディネーター 中道 由美子

島根県社会福祉協議会では2021年度から、子ども食堂サポート事業を行っています。

子ども食堂同士の情報交換や県内の企業・個人の皆さんからの支援の輪を広げることを目的に、昨年11月に「しまね子ども食堂ネットワーク」を立ち上げました。

年2回の運営者同士の交流会をはじめ、子どもを中心とした地域活動について学ぶ「子どもの未来応援セミナー」、活動の広がりやすい環境づくりや具体的支援について学ぶ「子どもの居場所づくりコーディネーション研修」を行っています。また、食堂運営者による開設希望者への支援としてしまね子ども食堂応援アドバイザー派遣も行っています。各研

修等を通して、それぞれの立場から子ども食堂を支え広げるサポートを一緒に考えます。

子ども食堂って、どんなところだろう？と思った皆さん、島根県社会福祉協議会のホームページにネットワークに参加する子ども食堂を紹介していますので是非ご覧ください。



研修・情報交換の様子

“おたがいさま”は、役立ち感と安心感の共鳴で広がっている！

有償たすけあいシステム「おたがいさま」は、20年の活動経験を持つまでになりました。

コロナウイルス感染もありますが、助け合いたいというあたたかい気持ちは継続しています。暮らしやすさや安心を生む「おたがいさま」が普通に身近なことで認知されるよう取り組んでいます。

センターおたがいさまチームは、県内にある6つのおたがいさまの運営支援を行っています。昨年度の主な支援として、運営の軸となる事務局の交流会や、利用者・応援者さんと直接関わるコーディネーター交

センターおたがいさまチーム 清原 春美

流会を開催し、たくさんの気づきと研鑽の機会になりました。

また、全国から研修依頼がありました。法政大学大学院の講義では「地域課題に取り組むおたがいさま」という内容で、社会人学生さんと向き合い新鮮な経験ができました。生活クラブ神奈川や、吉賀町社協さんとは「おたがいさま」の具体的な内容について掘り下げたお話もでき、講師にとどまらない学びの機会をいただきました。



法政大学大学院 講義 オンライン形式(センター)



各おたがいさまのリーフレットをご覧ください

「おたがいさま」は全世代が対象ですが、忙しい子育て世代には情報が十分届いていません。『あなたの周りにも喜んで手伝ってくれる人がいますよ』 事例を紹介します。

夫婦とも急用で出かけなくては
いけない時に利用しました。
二人の子どもたちは応援者さんと遊
びながら、お留守番してくれたので
安心しました。

妊娠中に手伝って欲しいこと
重いゴミを1階まで運んだり、動き
づらい掃除をお願いしました。

美容院はゆっくりと・・・

髪を切ってもらう間、子どもをみてもらいました。



松江の子育て世代のための新感
覚フリーペーパー『ねえ、みちよっ
て!!』に、おたがいさままつえ・や
すぎが掲載されました。見てね!

出雲地域交流会の広がり

出雲地域交流会 事務局 福場 由紀子



5月定例会(出雲医療生協 在宅支援センター)

「出雲地域交流会」は 地域に集まれる「場」として それぞれの活動の情報共有や 企画が生み出されています。

昨年度には、ワーカーズコープの方を講師に、協同労働やSDGsについて学ぶことができました。新たな団体との交流で話し合いが少しずつ広がっていくのを感じています。

また、毎年行っている事例検討交流会ですが、今年度は「ケ

アマネージャーさんとの連携～住み続けられる出雲市への第一歩～」と題し、行政、ケアマネ協会、包括支援センター、市社協からの参加が実現、この6月に実施することになりました。お互いの役割や活動を知ることによって、より良い包括支援が出来る事をめざします。

その他にも、2、3団体間の新たな連携が生まれたり・・・と 広がりを見せています。また、今年度からは 事務局体制も整備し、現在の団体以外の皆さんも、参加・交流できるよう開かれた「場」として 楽しく地域づくりが出来たら・・・と思っています。



NPO 訪問

メンバー：出雲医療生協「虹」、ひかわ医療生協「つくし」、おたがいさまいずも、生協しまね、グリーンコープ、JA 斐川地区本部、ワーカーズコープ オブザーバー：出雲市社会福祉協議会

出雲地域交流会と私の出会い

ワーカーズコープ キャリアコンサルタント 細木 由紀久

出雲地域交流会と私の出会いは、子ども食堂「なないろ食堂」見学からでした。それ以後「人と人がつながりあって、誰もが孤立せず共に生きる社会を地域のみなさんと共に創っていきたい」という出雲地域交流会の目的のもとメンバーの団体さまとの交流を深めさせていただいています。



日本生協連中四国地連「あったか地域づくり交流会」には出雲交流会メンバーのうち5団体が共にセンターからズーム報告しました

私が所属する団体は、日本労働者協同組合(ワーカーズコープ)連合会センター事業団です。私たちは「働く人びと・市民が、みんなで出資し、民主的に経営し、責任を分かち合って、人と地域に役立つ仕事をおこす」協同労働という働き方を実践する協同組合です。

現在、全国に事業本部をおき、約400の事業所で行政からの受託事業、高齢者介護、公共施設の管理・運

営、子育て支援、自立・就労支援などの分野で働いています。島根県では、15歳から49歳の就労支援事業「島根県地域若者サポートステーション」を受託運営しています。また、就労移行支援事業所「あんびす」を運営しています。

私たちの働き方「協働労働」は、自ら出資し、事業の運営に携わりつつ事業に従事する事業・労働形態を指すものであり、使用者の指示に従って事業に従事し、賃金を得るという「雇われる」働き方とは異なるものとして世界的にも注目され実践されているものです。市民自らがやりがいを感じられる事業を創出し、主体的に働くことを通じて、地域の課題を解決し、地域に貢献しようとする事への関心が次第に高まってきました。これは、「働きがいのある人間らしい仕事」いわゆるディーセントワークです。

一昨年の12月、念願であった労働者協同組合法が成立、本年10月1日施行されます。この法律のもと、これからも出雲地域交流会に参加させていただき、協同労働という働き方を通じ出会いを広げ、地域の人々と連携、「持続可能で活力ある地域社会の実現」に向けて実践してまいります。



ひかわ医療生協では、昨年より「つながるマルシェ」に取り組んでいます。フードドライブやお困りごと相談を中心に、無料で野菜やお米、時には学用品や子育て応援グッズをバザーで集め運営資金にしています。フリーマーケットや子供コーナーも設置し、この春は、グリーンコープさんと協同で筍堀にも行って、支援食品を増やしました。フードドライブをご利用される方だけでなく、さまざまなたすけ合いのつながりを深めていきたいと思っています。

また、有償助けあいつくしの登録支援者も111%増え支援回数も昨年を上回り、新規依頼者も29件増えまし

た。草取り依頼は多いですが、それ以外の暮らしのお困りごと「一人暮らしの高齢者の雨どいの掃除」「服薬の見守りとお部屋の掃除」「お話相手」などの依頼も増えてきました。3年目にしてやっと役割が認知されつつあるのかなと感じています。

イベントとしては、「支援者のつどい」や「障子張の勉強会」を行いました。障子張は、近くのコミセンの障子で勉強会させてもらいました。

これからも、さまざまな団体や人々と力を合わせて、「たすけ合えるまちづくり」をすすめていきたいと思っています。



生協しまね 新入職員研修 (諸団体地域連携事業を学ぶ)

2022年4月15日、今年も、会員団体である生協しまねの新入職員9名が



諸団体連携で進める各事業の研修のため、当センターへ。「フードバンク」「なないろ子ども食堂」「おたがいさま」各活動の設立経緯やコロナ禍における状況について、各事務局からDVDやHP上の動画、リーフレット等を活用しお伝えしました。真剣に聴いてくださった皆さんから、みずみずしい感想がたくさん寄せられました。スタートする「子どもの笑顔」応援基金も含め、すべての事業は「お互いに支え合うしくみ」をカタチにしています。働き始めた皆さんの働き甲斐や誇りにつながるとうれしく思います。

利用された方が笑顔になってほしい。自分もおたがいさまの応援者としてやってみたい!

なないろ食堂では、こどもの貧困だけに目を向けるのではなく、支援のつながりを通して地域の人々との新たなコミュニティを創っているところが素晴らしい。

(フードバンクの話聞き)都会と地方の貧困がこれほど変わらないことに驚きを受けた。自治体だけでは受けきれない小さな案件にも対応できる事がすばらしいと思った。

生協しまねの説明会でセンターの話を知りましたが、実際に聞いてみるといかに地域に密着しているかが良くわかった。機会があれば、私も参加し、島根の地域の一部になりたいと思う。

後記:当センターが諸団体拠点として設立され、早や9年目。有償たすけあい「おたがいさま」活動に始まり、現在、5つの**諸団体連携のカタチ**が進行中。この10年間「地域ケア連携推進フォーラム」の企画運営、参加を通し多様なつながりが生まれ「今」があります。「支えあってこそ 人間(ひと)」この想いを真ん中に、真剣に聞いて考えて、毎日ナニカト大笑い!の事務所。…んにしても、コロナ終息、はやこと たのんわ~(の)

地域つながりセンター
2021年度 賛助団体のご紹介
【団体16件、個人55名】
心より御礼申し上げます

- 島根県生活協同組合連合会
- (有) 永和グループ
- はらガス産業(株)
- 島根県厚生農業協同組合連合会
- 一社) 島根県農協電算センター
- JAしまね西いわみ地区本部
- 大学前のつ内科クリニック
- クリッパ
- (株)イトハラ水産
- (株)JAアグリ島根
- ニッシングルメビーフ(株)
- 間口ウエストロジ(株)
- 松江土建(株)
- 島根中酪(株)
- マルイ食品株式会社
- 生協しまね虹の会
- (生産者メーカー78社)

*センターは会費、賛助会費、寄附金等で運営しています。新たな事業「子どもの笑顔」応援基金にも**皆様の賛助会費の5%**が、充てられます。今年度もご協力宜しくお願いいたします!